

会派代表質問

コロナ禍において市民サービスの充実を目指して

公明党

上代 和利 議員



問 金坂市長の今後2年間のビジョンについて

答 今後2年間については、第6次総合計画前期基本計画に基づき、公約の実現に向けた施策を展開したいとおもいます。また、厳しい財政状況を踏まえ、財政健全化にむけた緊急的な取り組みを実施していきます。新型コロナウイルスに関しても、迅速・的確な舵取りを行いながら「未来に向けてみんなでつくるうー！住みたい・住み続けたいまち」、この実現を目指して計画かつ効率的な行政運営に邁進してまいります。

問 予算編成方針はどのように考えたのか、市民にアピールしておきたい特徴、歳入面、歳出面について。

答 依然として、厳しい財政状況にあることから、新規事業の抑制、経常経費の削減、既存事業の休廃止等に取り組みとともに、ふるさと納税の強化など、歳入増を図ることとしたため、一般会計の予算規模は146億4,400万円となった。歳入については、市税や普通交付税の減額が見込まれる一方、臨時財政対策債や寄付金の増収を見込んでいる。歳出については、福祉関係費や公債費の増加に加え、特別会計への繰入金が増加する一方で、普通建設事業費が大幅に減少することになりました。

問 第7次介護計画の進捗と今後の介護計画について

答 重度認定者向けの在宅サービスの普及を図るため「看護小規模多機能型居宅介護」の整備並びに、同規模市と比較して入所者数の確保が十分でないと考えられる「特別養護老人ホーム」については、令和3年4月に予定通り季美の森地区に開設する運びとなっております。今後については高齢者数の増加に伴い、認知症の方も増加が見込まれるため、「認知症高齢者グループホーム」の整備について計画をしています。

問 ふるさと納税の状況について

答 今年度1月末時点の受け入れについては、昨年4月からの累計で件数が、5,947件、金額は、1億519万となっております。本市では制度の趣旨を遵守したうえで、返礼品の充実を図り、寄附額の増加にむけて取り組んでいきます。

問 GIGAスクール構想の現在の進捗と今後の対応について

答 3月末までに全児童生徒へ端末の配置および学校内の通信ネットワーク整備を完了する予定であり、今後、各校の教職員を対象に端末操作等の研修を実施し、4月からは職員のスキルアップに努め児童生徒におきまして、教室内で端末を利用できることから、調べ学習をはじめ活用方法について協議してまいります。

問 再生可能エネルギーについて

答 平成30年4月に「太陽光発電設備の設置及び管理に関するガイドライン」を策定し、事業者に事前協議や説明会の開催の他、事業の実施において配慮する事項として「景観への配慮事項」「反射光、反射熱の対策」を求めています。今後、事業者が地域住民に対してより丁寧な事前説明ができるよう、説明事項の一覧を示してまいります。

他にも、防災減災対策の長国地先の対策について、南白亀川の維持管理についてを質問させていただきます。

関連質問

秋葉 好美 議員



問 後期高齢者医療費窓口負担について伺います。政府与党は、昨年の12月に、75歳以上の後期高齢者のうち年収200万円以上の人の医療費窓口負担を1割から2割に引き上げる方針で合意いたしました。後期高齢者の医療費窓口負担見直しで、年収200万円以上は、平均的な収入で算定した年金額、いわゆる単身で187万円を上回る水準、当てはまるのは後期高齢者全体の約30パーセント、このうちの現在、3割負担となつている現役並み所得の高齢者7パーセントを除いた23パーセントが2割負担となるように思います。そこで伺いたしますが、本市での1割負担の方、そして3割負担の方はおよそどのくらいいるのか、また、このような制度になつた場合、本市での2割負担の方はどのくらいになるのか伺います。

答 現在、後期高齢者医療制度の窓口負担割合は、所得に応じて3割負担と1割負担に区分されており、令和2年11月末現在の被保険者数は7,342名、そのうち1割負担の方は6,970名、3割負担の方は372名となっております。次に、窓口負担が2割負担となる方の要件は、課税所得が28万円以上かつ被保険者単身世帯では年収200万円以上、また複数世帯では年収320万円以上を対象としていることから、これらを条件に試算したところ、1割負担6,970名のうち約1,900名が2割負担へ移行するものと推計されます。要望として、後期高齢の財源は皆さんの保険料、国・県・市町村からの支出金、現役世代の支援金などから成っています。医療費の適正化に一人一人が協力していきたいものです。

関連質問

引間 真理子 議員



問 コロナワクチン接種場所でのオペレーションと作業分担や人員確保、高齢者施設入居者への接種体制、高齢者の2回目の確実な接種の対策、安全性、副反応についての情報提供と相談窓口について伺います。

答 保健文化センターでの集団接種を想定しシミュレーションを実施、市民の皆様が安全で接種が受けられるようレイアウトや人員の配置、動線の確認、円滑な接種体制の構築を図つてまいります。高齢者施設の施設関係者及び嘱託医等と連携を図り円滑な早期の接種に努めます。現時点では、予約時に1回目と2回目を同時に予約していただくことを想定しております。千葉県や市において副反応などの相談窓口となるコールセンターを設置します。

個人質問

大網病院での入院患者と家族の面会の実現を！診療科目の充実を！

黒須 俊隆 議員



問 65歳以上の入院患者数、平均入院日数、長期入院されている方の状況をお答えください。

答 大網病院における今年度の入院患者のうち、65歳以上の患者数は月平均で116人、入院患者全体の83パーセントです。また、平均入院日数は全体で18日、このうち65歳以上の患者は20日です。長期入院患者の状況につきましては、今年度、60日以上の患者は79名で、入院患者全体の6.2パーセントとなります。

問 入院患者との面会や着替えの差し入れなどについてどのようにしていますか。

答 入院患者への面会については、新型コロナウイルス感染症対策として、医師が必要と認めた場合を除き面会制限をしています。着替えなどの差し入れについては、1階受付前で看護師が受渡しを行っています。問 インフルエンザと比べてはるかに厳しい面会制限です。家族にとつては、大変つらい状況です。医師はどのようなとき面会を認めますか。答 一番多くは患者の病状説明を家族にするときです。

問 ご年配の患者が数週間、数か月家族と面会できない場合、苦しいだけではなく、認知症が進む心配もあります。命は大切ですが、ただ生きていけばよいわけではなく、いかに生きるかが大切だと思います。生きる目標や喜びが必要だと考えます。

答 入院患者の面会について制限をしている中、入院患者及びご家族の皆様が不安が大きくなっていることとお察ししています。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止の措置として引き続き面会制限を継続せざるを得ないと考えています。そこで、皆様の不安を和らげる改善策として、オンライン等による面会について検討している段階です。

オンライン等で面会できる可能性を探ってくれているという、前向きな答弁がありました。ぜひ面会できるようにしていただきたい。

また、可能ならば2階の入院病棟は難しいとしても、例えばリハビリで1階に降りてくる患者さんが、リハビリ室の近くにアクリル板を設置して家族とお話できるようにするなど、医療従事者の負担にならず、その上でクラスターが発生しないような対策で面会が可能になるよう対応をお願いしたいと考えます。

問 市内のクリニックで皮膚科の専門医が大変少ない。近年、アトピー性皮膚炎など皮膚科に通うお子さんが増えています。また、高齢化で皮膚科を受診するご年輩の方も増えているのではないのでしょうか。

大網病院は現在、予約制で週2回、皮膚科外来を受け付けていますが、さらに皮膚科に力を入れることはできないでしょうか。

答 大網病院における皮膚科などの外来については、千葉大学から派遣される非常勤医師が診療を行っています。診療日については、千葉大学が中心となって調整しているもので、現状では難しいと考えています。

今回は皮膚科を一例として挙げましたが、他の診療科も含め、近隣の民間病院で弱い診療科を大網病院が市民病院として担っていくことができれば、市民にとって使いやす便利な病院になると思います。千葉大学などにも積極的に働きかけて、市民にとってよりよいサービスにつながるようお願いいたします。